



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立潮来第一中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：井上 智裕 先生（レスリング）【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2023年11月7日(火)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・リオデジャネイロ2016大会にレスリングのグレコローマン種目が出場したと自己紹介。オリンピックバリューは、人生をより良く生きる上で大切な価値だ。運動の時間はオリンピックバリューを意識し取り組んでほしい。ラジオ体操を行った後、2人で1本のハチマキを持ち、そのハチマキをお互いに引いたり緩めたりしながらバランスを保ち、足が動いた方が負けとする運動を実施。レスリング競技は相手のバランスを崩して倒すため、イメージしながら行ってほしいと話す。

○主運動等



・主運動はそりリレーを実施(全3回)。2つの班を1チームとし3チームで対戦し、タイムと着順を競う。2人組の1人はそり(バスマット)に乗り、もう1人は紐を使って引っ張り、コーンを折り返して戻り次のペアに引き継ぐ。そりに乗る人と引く人は途中で交代せずに1周する。そりを引く人は乗る人の準備ができてからスタートし、乗る人はマットから落ちないようにバランスを保つ。乗り方や紐の持ち方を工夫し、お互いが協力し合うことが大切だと話し、工夫する点を班で話し合う作戦タイムを設ける。



・運動の時間を振り返り、自身の練習でもそりリレーのように相手を引くトレーニングする。皆にも似た体験をしてもらえて嬉しい。またそりリレーでは、体重の軽い人を引っ張ったり、床に足が着かないように工夫したり、寝た姿勢で乗る等、皆が一生命作戦を考え取り組んでいた。仲間を思い工夫することは、オリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自身の競技経験を話しながら、皆とオリンピックバリューを考え、一緒に学んでいきたいと話し、授業終了。

■オリンピック：井上 智裕 先生 (レスリング) 【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2023年11月7日(火)

■ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・試合で着用したユニフォーム、靴、白いハンカチを披露。ユニフォームは相手と違う色を着用し、そのユニフォームの中に必ず白いハンカチを入れておく。その理由は怪我をした際に出血を拭くためであり、レスリング競技は紳士的なスポーツだと言われている。父親がレスリングの指導者だったため、幼少期からレスリング競技を始めたが、最初は全く試合に勝てず辞めたいと思っていた。小学校3年生の時に初めて試合に勝ち、勝つことの嬉しさを経験し、何事も諦めないことが大切だと改めて感じる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間や文化祭、体育祭、日常生活等を振り返り、どんな行動がオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「運動の時間のリレーでベストを尽くして頑張った」「文化祭の練習を休み時間や放課後にも行った」等
 フレンドシップ：「文化祭の練習で皆と音程や声を合わせた」「運動の時間にお互いを理解しチームワークを高めた」等
 リスペクト：「運動の時間に転んでも声を掛け応援した」「普段の生活でも周りの人に感謝」「リレーで相手を思いやる」等



・運動と座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは人々が人生をより良く生きる上で大切な価値観だ。文化祭、体育祭や部活動等の勝負事だけではなく日常生活においても、オリンピックバリューは皆の身近に存在し大きく関係している。皆はこれから高校受験や多くのことに挑戦するチャンスがたくさんある。その時にオリンピックバリューを思い出し、今の気持ちを忘れずに何事も一生懸命頑張ってほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：井上 智裕 先生（レスリング）【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2023年11月7日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・リオデジャネイロ2016大会にレスリング競技のグレコローマン種目で出場したと自己紹介。運動の時間はオリンピックバリューを意識して取り組んでほしい。ラジオ体操は、体がしっかり温まるように1つ1つの動作を大きく全力で動かす。その後、2人で1本のハチマキを持ち、そのハチマキをお互いに引いたり緩めたりしながらバランスを保ち、足が動いた方が負けとする運動を実施。レスリング競技は相手のバランスを崩して倒すため、イメージしながら行ってほしいと話す。

○主運動等



・主運動はそりリレーを実施(全3回)。2つの班を1チームとし3チームで対戦し、タイムと着順を競う。2人組の1人はそり(バスマット)に乗り、もう1人は紐を使って引っ張り、コーンを折り返して戻り次のペアに引き継ぐ。そりに乗る人と引く人は途中で交代せずに1周する。そりを引く人は乗る人の準備ができてからスタートし、乗る人はマットから落ちないようにバランスを保つ。乗り方や紐の持ち方を工夫し、お互いが協力し合うことが大切だと話し、工夫する点を班で話し合う作戦タイムを設ける。



・そりリレーでの作戦を尋ねると、マットの乗り方を工夫した、全力で引っ張った、2回連続で同じ人がマットに乗ることで乗り換えの時間を短縮した等答える。皆でアイデアを出し合い工夫して取り組んだことは、全てオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自身が競技人生を通して感じたオリンピックバリューを話すので、皆も自分自身のオリンピックバリューを考え、一緒に学ぶ時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：井上 智裕 先生 (レスリング) 【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年11月7日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・レスリング競技でオリンピックに出場したと自己紹介後、着用したユニフォームと靴、ハンカチを披露。ハンカチは白色と決まっていて、怪我をした際に出血を止めるために必ずユニフォームの中に入れておくルールがある。レスリング競技は紳士的なスポーツと言われている。オリンピックバリューについて説明し、特に自分自身と関わりのある人々への感謝の気持ちを忘れずに、運動の時間も取り組んでほしいと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間や文化祭、体育祭、日常生活等を振り返り、どんな行動がオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「リレーで一生懸命頑張った」「部活動では自分なりに練習を工夫し自信を持つ」「試合は諦めない」等

フレンドシップ：「リレーで仲間と話し合った」「文化祭で皆と協力した」「部活動で友達が失敗しても励ます」等

リスペクト：「文化祭でお互いの個性を尊重する」「普段の生活でもルールを守る」「試合等で審判にきちんと挨拶する」等



・グループワークの発表では、皆が日々取り組んでいる部活動についてのオリンピックバリューが多かった。普段の生活の中の身近にオリンピックバリューがあることを理解してもらえたと思う。皆がこれから経験することの中で、得意不得意な両方のことが必ずある。その時に諦めずに、挑戦する気持ちを持ってほしい。今日学んだオリンピックバリューを思い出し、皆のこれからの人生に活かしてもらえたら嬉しいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

